

直径145センチ。見たことのない大きな丸い葉が水面に浮かぶ。その上に子どもが立つても、不思議と葉は沈まない。親子連れが歓声を上げていた。

パラグアイオニバスの試乗会で、草津市立水生植物公園みずの森の夏の人気イベント。初日の11日は、74人が体験した。甲賀市信楽町から両親や弟と訪れた黄瀬日菜実さん(7)は「揺れて沈みそうでドキドキしたけど、楽しかった」。

みずの森は、近くの県立琵琶湖博物館と同じ1996年に開園した。3・7畝の敷地で、60種類のハスや100種類のスイレンなど水生植物が楽しめる。アトリウム(屋内庭園)では、熱帯の水生植物

## 草津市立水生植物公園みずの森

# 巨大ハス 乗ってます

《メモ》一般300円、高校生・大学生250円、小中学生150円。月曜休園(祝日の場合は翌日休園)。パラグアイオニバスの試乗会は25、26両日の午前10時～正午。体重30キロまでの人で各日50人。問い合わせは、みずの森(077・568・2332)へ。

も見る事ができる。

6月には、2002年から育ててきたパプアニューギニア原産の水陸両生植物「ヤマサキカズラ」が開花した。国内初とみられる。みずの森は珍種の開花を積極的に発信している。

近江鉄道(彦根市)などが指定管理者になった13年度以降は、植物愛好者以外の取り込みに力を入れる。昨年度は園内結婚式やハート形の植物を集めた企画展などを開いた。この取り組みが評価され、5月にNPO法人地域活

性化支援センターが選ぶ「恋人の聖地 観光交流審査員賞」を受賞した。

16年、近くのハスの群生地が消滅する事態に直面したが、翌年から園内に復活させる事業を始めた。地元の小学生や幼稚園児らが鉢に植え付け、今夏は池いっぱい20

0鉢の花を咲かせた。「ピンチはチャンスですよ」と小田貴志園長。

朝開花してつかの間の美しさを見せるハスは、人生をも連想させる。身近な水辺の緑に元気をもらいに、また来たい。レストランでパラグアイオニバスの葉をかたどったプレート(オニバスランチ(800円)のハンバーグを食べながら思った。(岡本洋太郎)



パラグアイオニバスの葉の上に立ち、笑顔を見せる子ども。草津市下物町